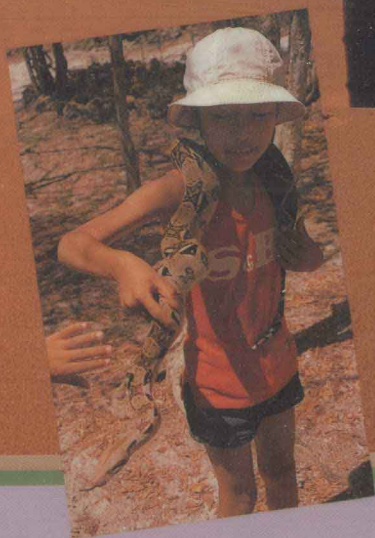
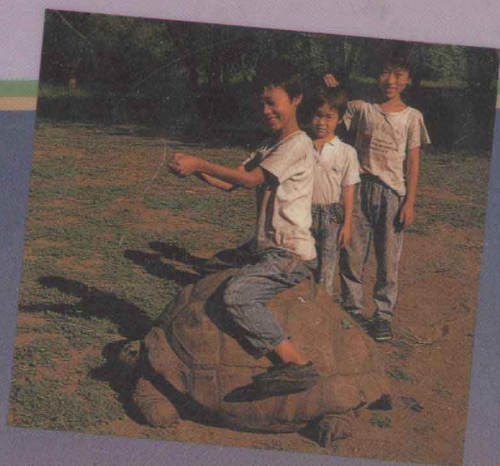


わんぱく一家の アフリカ大冒険2万キロ

脇野修平



NDC913

小学校中・高学年向き

192ページ

わんぱく一家のアフリカ大冒険 2万キロ

© Shuhei Wakino, 1990

1990年 6 月23日 初版発行

著 者 脇野修平

発行者 増田義和

印刷所 東京研文社

製本所 共文堂

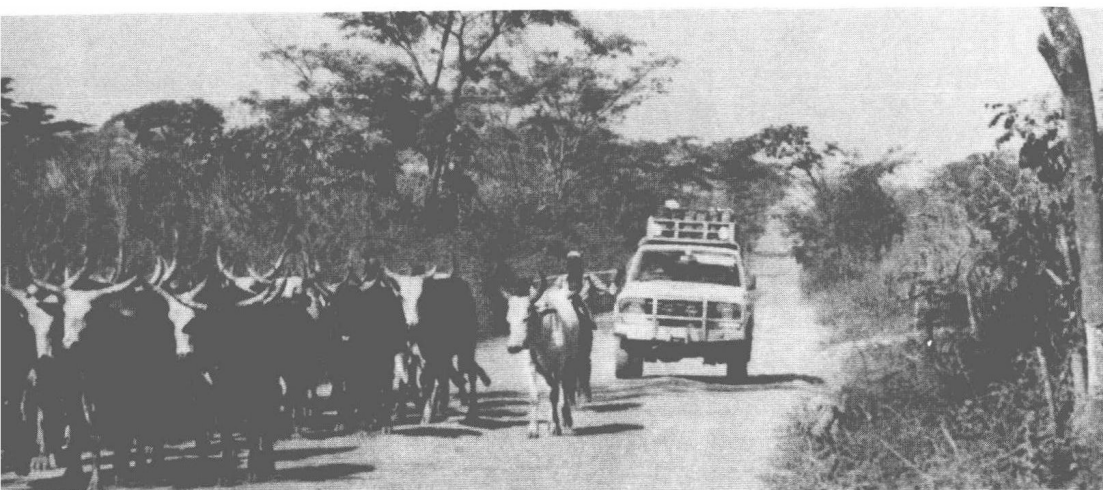
発行所 実業之日本社

〒104 東京都中央区銀座1-3-9

振 替 東京1-326

電 話 出版部03(535)2301 販売部03(535)4441

ISBN4-408-36109-7



江苏工业学院图书馆

蔵書章
わんぱく一家の
アフリカ大冒険2万キ。

脇野修平

● もくじ ●

アフリカへ行こうよ! 5

パパとママのアフリカ新婚旅行? きつとまた、アフリカへ8 準備/特訓/大いそがし!!12 待ってる アフリカ!17

これがサハラだ! 21

サハラとの出会い23 オアシスを結んで26 六人目の家族とともに29
マンラセツトの休日34 アサクラム征服38 パパの剣42 砂漠との闘い44
憂気楼51 国境を越える53

黒人の国へ 57

砂の海、イナゴの海59 アガデスの町で60 日本人とすごす63 走り抜ける/66 オリビエさんの小屋70 ヒーロー、航平74 おじゃまします!コトさん76 バンギでの再会79

熱帯ジャングルを越える……………87

ジャングルを前に 89 心平コール 90 ジャングルの住民たち 93 おうち帰
ろうよ 96 フェリーボートはセルフサービス? 100 山賊パーティ 103 エブ
ルのオカピ 106 がんばれ ママ!! 112

サバンナをゆく……………117

ゴリラ見物 119 どっちが好き? 121 事故発生!! 125 ツイてるボクたち 132
復活ボレボレ号、サバンナをゆく 136 ナイロビ・バレード 141

ケニヤの冒険旅行……………147

マトマイニ・チルドレンホーム 149 ロングノット登山 155 大雨の夜 161 ケ
ニヤ海岸地方をゆく 164 深夜の襲撃 170 大地溝サファリ温泉ピクニック 173
トウルカナ湖開発計画 176 道に迷う 181 おじいちゃん、はりきる 183 バイ
バイ! アフリカ!! 185

あとがき……………188



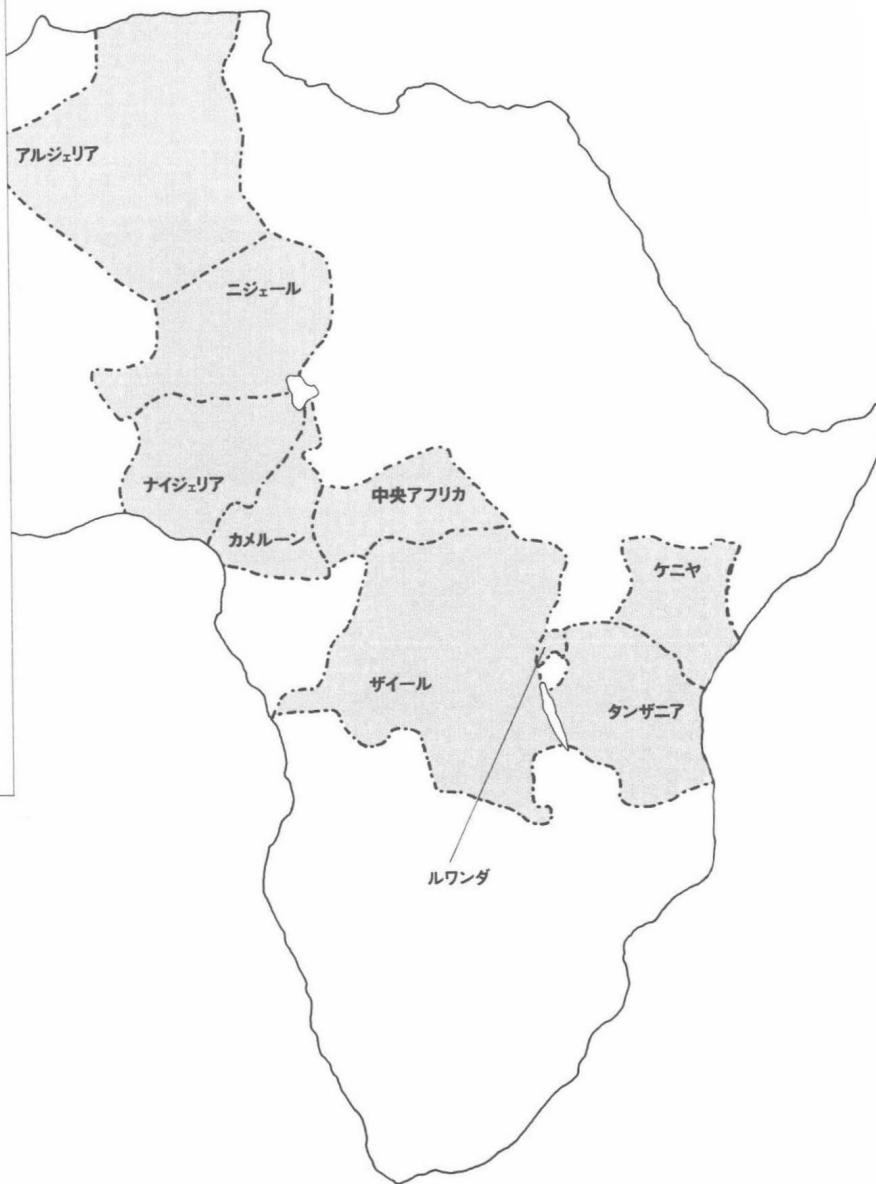
脇野 修平

昭和二十三年、千葉県市川市に生まれる。立教大学を卒業後、雑誌編集者となるが、二年間で退社、単身アフリカへと旅立つ。以後フリーライター業の傍ら、渡アフリカ歴は、今回の大冒険を含めて九回に及ぶ。現在は編集プロダクションプロデューサー。

著書に『アフリカを歩く』（ブロンズ新社刊）『スワヒリ語会話入門』（共著・ブロンズ新社刊）等がある。

写真：脇野修平 ブックデザイン：込山芳範
脇野元美

アフリカへ行こうよ！



パパとママのアフリカ新婚旅行

もう十三年も前の話です。

結婚したばかりのパパとママは、二人でアフリカ大陸を旅行したことがあります。二十キロもある重いリュックサックをかついで、トラックやバスにのりながら、砂漠を越え、ジャングルを踏み分け、大きな川や湖をいくつも渡って、東アフリカのケニヤという国にたどりつきました。

病気にかかったり、二人で大ゲンカをしたり、お金を盗まれたりなど、たいへんな苦勞もしたし、砂漠にせずむ夕陽や大草原の野生動物たちをみて、感激したこともあります。さまざまな人たちの親切にも出会い、アフリカ人の友だちもたくさんできました。地球には、たくさんすばらしい自然と文化があり、そこにはまたさまざまな生活が営まれていることを、この旅行であらためて知りました。

と同時に、この大旅行を終えて、パパとママは、いっそう仲がよくなったし、これから先、ずっといっしょに暮らしていく自信がもりもりとわいてきたのです。



13年前、大新婚旅行中のパパとママです。

きつとまた、アフリカへ

アフリカから帰ってきた翌年、長男の航平が生まれました。ラマーズ法という独特のお産の方法で、パパとママが手を握りながら、お互いに助けあって、赤ちゃんを産むのです。とても感動的なお産でした。

そのときに、二人で相談しました。

「航平が小学校に入るところ、三人でもう一度アフリカへ行こう」

しかし、その三年後、次男の薫平が生まれました。

「よし、もう少し待って、薫平が小学校に入るころ、四人でアフリカへ行こう」

と、計画けいかくをのばしました。

しかし、そのまた三年後に、今度は三男さんなんの心平しんぺいが生まれました。

パパはうーんとうなって、

「よし、計画けいかくはまた延期えんきだ。心平しんぺいが歩けるようになったら、五人でアフリカへ行くぞ」

それから一年たち、二年たち、話はだんだんもりあがってきました。近くに住むアフリカ人が遊びにきて、アフリカの話をしてくれます。子供たちはアフリカの写しゃ真集しんじゅうをみて、

「早くアフリカ行きたいなー」

とため息いきをついています。テレビでアフリカの番組をやるときは、家族みんなで楽しみました。

やがて、一番チビの心平しんぺいが二歳になりました。長男の航平こうへいが小学校の三年生になりました。次男の薰平くんぺいは保育園の年長組です。どうやら真剣しんけんに計画けいかくを考える時期じきが来たのです。

しかし、パパとママは、少し心配しんぱいになってきました。

まず第一に、子供たちの健康けんこうのことです。日本でも、しょっちゅう風邪かぜをひいたり、熱を出したりして、三人の子供たちのうち、誰か一人は医者通いがよというぐあいなのに、「アフリカなんかいつて大丈夫だいじょうぶかしら」という心配しんぱいです。パパだって、アフリカで二度もマラリアにかかったのをはじめ、何度も病氣にかかっているのです。水や食べ物からうつる肝炎かんえんとかチフス、コレラ、破傷風はしちゆうふう、その他ほかにも得體えたいのしれない風土病ふうどびょうだつてたくさんあるに違いありません。

もうひとつの心配しんぱいは、子供たちの学校とパパの仕事のことです。アフリカ横断旅行おうだんりょとなると、少なくとも半年はかかるでしょう。学校や会社がそんなにたくさん休みをくれるでしょうか。子供たちの進級しんきゅうは大丈夫だいじょうぶでしょうか。半年も学校を休んだら、勉強めいけんがみんなに追いつかなくなるんじゃないでしょうか。

もちろん、旅行に必要なお金ひつようのことも心配しんぱいです。家族みんなでアフリカ旅行となると、相当そうとうのお金がかかるでしょう。わが家やの貯金ちぎんを全部使つてもたりません。

パパとママは、毎晩まいばん相談そうだんしました。

「子供たちを危険な目にあわせてまでも、アフリカに連れていく必要があるのかしら」

とママがいました。

「家族みんなで危険を乗り越えることが大切なんだ。危険や困難を乗り越えないと、本当の感動なんて味わえないよ」

とパパ。

「でも、それは私たちの考えでしょ。親の勝手を子供たちにおしつけることにならないかしら」

「親の勝手を子供たちにおしつけることが僕たちの教育だと思う。テレビやファミコンを取り上げ、学校の教科書や友だちも取り上げ、とにかく地平線をみてみる！とおしつけることが、僕らのやり方なんだ」

「違うでしょ。本当は、何よりも私たちがもう一度アフリカへ行きたいのよね。でも、子供たちがいる。だからいっしょに連れていっちゃえってことなのよ」

パパは、苦笑いしながらいいました。

「そうさ。だけど、六か月のハンデなんか子供たちの長い人生を考えれば、なんでもないよ。とにかく一度決めたことなんだから、どうしてもいこうよ」

「そうね。行けない理由をさがすより、目的に向かつてがんばるほうがよっぽど楽しいものね。やつぱり、絶対に行こう！」

準備！特訓！大いそがし！！

ついに、具体的な計画をたてることになりました。

まず、家族五人でアフリカを横断するとなると、昔、パパとママがやったようなヒッチハイク旅行は無理です。どうしても車で行くことになります。だから、まず最初に、アフリカの旅にふさわしい車を手に入れなければなりません。

親子五人がゆつくりと座れ、たくさんのキャンプ道具を積めて、しかも砂漠やジャングルの悪い道でも平気で走れる頑丈な車です。いろいろと調べた結果、トヨタのランドクルーザーという車を買うことにしました。

出発は、車を買ってから一年半後の昭和六十三年十二月に決めました。車をヨー

ロッパに送り、フランスのパリをスタートします。そして地中海をフェリーで渡り、北アフリカに入って、サハラ砂漠を越え、西アフリカ、中央アフリカを越えて、東アフリカへ行こうという計画です。地図をみながら計算すると、走る距離は約二万キロ。地球をざっと半周できる距離です。しかも、そのほとんどは、舗装されていない砂やでこぼこの道なのです。

パパは、出発するまでに、車の勉強をしつかりやらなくてはなりません。車が動けなくなったときに脱出する方法、砂や泥道、川などをわたるときの注意、その他、車の整備や修理のやり方など、覚えることは山ほどあります。砂漠やジャングルでは、車が故障しても、人に頼らないで、自分たちだけで解決しなければならいからです。

ひまをみつけては、家族でキャンプに行きました。テントを張り、寝袋で寝る生活に慣れるためです。岩手県の三陸海岸に行ったときは、山の中で車が泥にはまって、大騒ぎになりました。

「パパ、こんなことで、アフリカ行けるの？」

と、みんながパパをせめたてます。

「やはり、こういうときは、こういう道具や装備が必要なんだな」

ロープ、スコップ、オノもそろえました。車が何かにつかっても、簡単に車がこわれたりしないように、丈夫なガードを車の前につけました。

車にくわしい友だちやアフリカにくわしい友だちの話を聞いて、大きなルーフ・キャリア（屋根につける荷台）をつけたり、タイヤを砂漠用のものと交換したりして、僕らの車は着々と冒険車に変身していきました。

車体には、大きなアフリカの地図を描きました。派手になりすぎて、ちよつと恥ずかしい気持ちもありましたが、子供たちは「かっこいい！」と大喜びです。

パパが、車の装備やキャンプ用品の準備をすすめている間に、ママは、子供たちの健康を守るための準備をすすめました。

長男の航平は、幼いころ、心臓と肝臓の病気をしたことがあります。ぜん息もときどき出ます。

次男の薫平は、ひどい乗り物酔いで、長い車の旅に耐えられるかどうか心配です。



三陸海岸キャンプ場にて。子供たちは元気ですが……。

三男の心平は、まだ幼児です。強いマラリアの予防薬を飲んだり、コレラやチフスの予防注射をして、副作用が出ないかが心配です。

ママは、長い間アフリカでくらしていた人を訪ねて、アフリカの医者や病院のようすを聞いたり、本を読んで勉強しました。

とくにお世話になったのは、わが家の近くで小児科医をしている柴田和子先生です。

柴田先生は、「熱が出たときはこれ、おなかをこわしたときはこれ」と、細かく書いた薬を、五人それぞれの袋にわけてくれました。それだけで、トランクいっぱいになるほでした。